

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第185号



今回のテーマ **FRBの議長交代、米金融政策への影響は?**

11月2日、トランプ米大統領がFRB(連邦準備制度理事会)の次期議長にパウエル理事を指名しました。議長交代により、FRBの金融政策はどのような影響を受けるのでしょうか?今回は、FRBの体制と、議長交代の影響などについて調べてみました。

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

1. FRB(連邦準備制度理事会)

FRBとは、米国の中央銀行にあたる「連邦準備制度」の中核に位置する組織で、金融政策の基本方針の決定などを行なっています。多くの中央銀行がめざす「物価の安定」に加え、「雇用の最大化」も使命として掲げているのが特徴です。

FRBは、議長や副議長を含む原則7名の理事で構成されます。理事はいずれも大統領が指名し、上院の承認を得て正式に任命されます。ただし、現在は、理事3名のポストが空席となっています(2017年10月末時点)。

FRB理事と地区連銀総裁が議論を行ない、金融政策について意思決定を行なう会合が、FOMC(連邦公開市場委員会)です。参加メンバーの中でも、FRB理事全員と、地区連銀総裁のうち5名が議決権を持ち、多数決で方針などを決定する仕組みとなっています。

そのため、金融政策の方向性を見通す上では、投票権を持つ理事や連銀総裁の金融政策に対する姿勢(利上げに積極的、消極的など)が重要なポイントとなるほか、同メンバーの講演などにおける発言内容に市場の注目が集まる傾向があります。

ステップアップ

4月にタルーロ氏が理事を、10月にはフィッシャー氏が副議長を辞任するなど、足元ではFRB理事の辞任が目立っています。背景には、トランプ政権が推し進める金融規制緩和への反発があるとみられています。



(次のページへ続きます)

□当資料は、日興アセットマネジメントが経済一般・関連用語についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

2. FRB議長

FRBのトップを務める議長は、世界の基軸通貨である米ドルの番人と称されており、FOMCの議長を兼任していることから、米国の金融政策の決定において鍵を握る存在と言えます。

議長および副議長は、FRB理事の中から選ばれ、理事と同様、大統領が指名し、上院が承認します。ただし、理事の任期が14年なのに対し、議長および副議長は4年に留まります。

実際には、再任が可能なため、歴代議長の多くが2期8年以上の任期を務めてきました。しかし、今回のトランプ大統領の指名により、パウエル現理事が上院の承認を経て、2018年2月に新議長に昇格すれば、イエレン現議長は、異例の短さとも言える1期4年で任期を終えることとなります。

現行の低金利政策を支持していたトランプ大統領が、イエレン氏の交代を決定した背景には、今回の人事で独自色を出す狙いがあったほか、イエレン氏は民主党政権下で経済運営に関わってきたため、共和党が再任に反対していたことがあります。こうしたことから、低金利政策を支持し、かつ共和党主流派に近い人物として、パウエル氏の指名を決定したとみられます。

金融政策の方向性は変わらず、今後も利上げは景気拡大に沿って緩やかに行なわれるとの見方などから、指名当日のダウ工業株30種が最高値をつけるなど、市場で好材料として受け止められています。また、パウエル氏はトランプ政権がめざす金融規制の緩和に前向きであり、この点でも市場に好感されているとみられます。

ただし、パウエル氏はイエレン議長などと異なり元エコノミストではなく、法律畑の出身であることから、急激な景気後退や金融危機など、緊急時に適切な政策運営を行なえるか、懸念する見方もあります。また、FOMCはあくまで合議制であり、議長も他の理事と同じく1票の議決権を持つに留まるため、今後、空席となっている理事にどのような人物が指名されるかも、金融政策の方向性を見極める上で重要と言えます。

今回の議長交代で金融政策が大きく転換することはないとみられるものの、新体制下で、政策運営や規制緩和が実際にどのように進められるか、今後も市場の注目が集まりそうです。

まずは、2018年2月以降、パウエル氏がFOMC後の記者会見や議会証言などを通じて、どのように市場と対話をしていくのかが注目ポイントになりそうですね。

 facebook  twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

ステップアップ

FRB理事は空席が目立つ状況となっていますが、10月には、元財務次官で、金融規制緩和派のクオールズ氏が指名され、新たに理事に就任しました。同氏は、金融規制の担当を務めることとなり、パウエル氏とともに、銀行の資本基準の簡素化など、規制緩和を推し進めていくとみられます。

